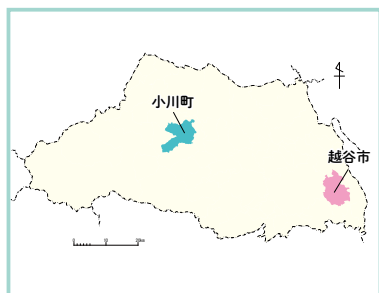




でんとうき
伝統的な
ぎじゅつ
技術を生かす
まち 小川町

つかむ

小川町や和紙に関係
した写真や資料を見て、
気づいたことや考えた
ことを話し合い、学習
問題をつくりましょう。



小川町の位置



小川和紙でつくられた和紙の製品



紙すきの体験



さいたまでんとうこうげい
埼玉伝統工芸会館

和紙のふるさと小川町

とも子さんたちは、小川町の和紙の写真
や資料を見ながら、気づいたことを話し合
いました。



「和紙でつくられた製品がいろいろ
あるのね。どのようにつくられてい
るのかな。」



「和紙は何からつくられているんだ
ろう。」



「小川町ではどうして和紙がつくら
れるようになったのかな。」

学習問題

小川町では、なぜ和紙づくりがさかんにな
り、どのようにして受けつがれているの
でしょうか。



和紙の原料となる「こうぞ」

小川和紙のはじまり

埼玉県には、昔から受けつがれてきた様々な伝統的な産業
があります。小川町で、和紙づくりが始まったのは、およそ
1300 年前のことです。

およそ 300 年ほど前、小川町は、人口の多い江戸や川越に
近く、紙が多く使われるようになったことで、紙すき工房がふ
えていきました。また、和紙の原料となる「こうぞ」が近くの
村々でたくさんつくられ、たくさんの水を必要とする和紙づく
りには山から流れる清流がてきしていました。

こうして、小川町は、和紙の産地になりました。

小川和紙年表	
年	できごと
774 年	しょうそういんもんじょ きろく のこ 正倉院文書に記録が残る
1800 年代	江戸で和紙が使われる
1949 年	「小川町七夕まつり」がはじまる
1978 年	小川の和紙が国の重要無形文化財に選ばれる
1999 年	小川町和紙体験センターができる
2014 年	ほそかわし ぎじゅつ 「細川紙」の手すき和紙の技術がユネスコ無形 文化遺産に登録される



つぎがわ
楓川

調べる

小川町の和紙づくり
がさかんになったのは
なぜでしょうか。

和紙のれきしや材料
を調べてみよう。

紙すき

和紙は、どろどろにとけた
原料を「すげた」という道具
ですくってつくります。この
ように、和紙をつくることを
「紙すき」といいます。



調べる

小川和紙は、どのようにつくられているのでしょうか。

和紙づくりの様子を見学してみましょう。



小川町、和紙づくりの工房

こうぼう



①ちり取り

せんいの傷や節、よごれなどを手でていねいに取りのぞきます。この作業が紙のよしあしを決めます。



②かす打ち

せんいをやわらかくするために、機械でたたきます。



③紙すき

「すきぶね」とよばれる水そうに、こうぞとトロロアオイを入れてよくまぜ合わせて「すげた」という道具で紙をすきます。



④カンダしぼり

すき終わったら「けた」から「す」を外し、「す」にろかされた紙を紙床にうつします。このとき、先に重ねてある紙との間に空気が入らないように注意します。この状態で、しめった紙をしぼっていきます。



⑤紙干し

かんそう機にしぼった紙をはりつけてかわかします。しかし、紙によっては、広い庭で天日（日光）でかわかすそうです。



天日でかわかすことで紙は白さをましていきます。



天井から下がったひもにくふうがありそうですね。



昔の紙づくりの手順



かすかしき



かずに



ちりとり



かすうち



とろたたき



かみすき



かみほし



調べる

和紙づくりの技術は、どのようにして受けつがれているのでしょうか。

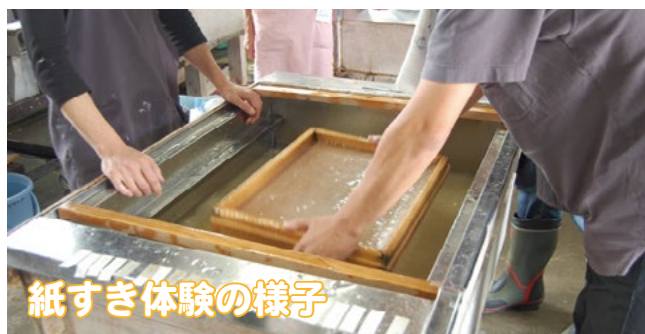
細川紙

小川の和紙の中で、もっとも有名な紙で、じょうぶな手すき和紙です。2014年11月27日、日本の手すき和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されました。細川紙の技術も登録されています。

ユネスコ無形文化遺産

ユネスコのそう会です。いたくされた「無形文化財保護条約」にもとづいて登録される世界的にかけの高いとされる芸のうの伝しょう、社会習かん、ぎ式や祭礼、伝統工芸技術などの無形文化財です。

小川町和紙体験学習センター

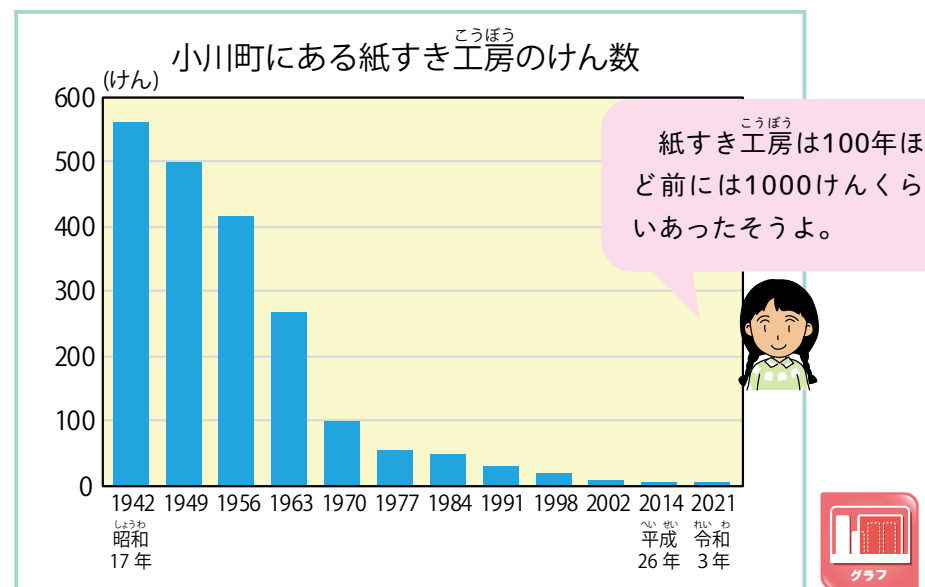


紙すき体験の様子



センター内の様子

伝統を守り、生かそうとする人々



小川町工業組合の人の話

小川町にある紙すき工場は、全部で6けんです。東秩父村や都幾川地区にもあります。

地いきで力を合わせて伝統を守るためにがんばっています。多くの人に、和紙製品を使っていただけるとうれしいです。

小川町和紙体験学習センターの人の話

昭和53年に国の大切な文化ざいに選ばれ、紙すきの技術が見直されるようになりました。埼玉伝統工芸会館や和紙体験学習センターがつくられ、小川和紙の伝統のわざを受けつぐため、さまざまなイベントや新製品の開発につとめています。

紙すき名人にインタビュー



和紙の原料は何ですか？

和紙の原料は、主に「こうぞ」です。国産のものは少なくなってきていて、外国からも仕入れています。



よい和紙づくりのひみつは何ですか？和紙づくりの苦労や願いも教えてください。

寒くて、水が冷たいときほど、よい和紙ができます。使う人に喜んでもらえるように、1まい1まい心をこめて和紙をすいています。

紙は、使ってもらってこそ生きてくるので、新しい時代に合わせて、お客様の気持ちを考えながら、商品をつくっています。

学習問題

小川町では、なぜ和紙づくりがさかんになり、どのようにして受けつがれているのでしょうか。

《小川町で行われるさまざまなイベント》

小川町七夕まつり

毎年7月に行われます。小川和紙をふんだんに使った七夕飾りが特ちょうです。竹かざりコンクールも行われ、見に来る人々を楽しませています。



小川和紙マラソン大会

毎年12月に行われます。緑と清流にかこまれた、れきしある小川町の中をランナーが走りぬけます。太鼓での応援や豚汁でランナーをもてなします。



小川和紙フェスティバル

毎年11月27日の小川和紙の日を記念して行われます。体験コーナーや作品展などのイベントでは多くの人が和紙にふれることができます。



まとめる

小川町が、目指しているまちづくりについて話し合い、学習問題の結論を出しましょう。



和紙のある食卓のてい案



国産のこうぞ